

Vol.195 学校が考える「学校制服の必要性」

学校制服の歴史は古く、日本では今から100年以上前の明治時代に始まったとされています。詰襟(学ラン)・セーラー服・ブレザーなど、形やデザインは違ってほとんどの方が学生時代に着用した経験のある学校制服ですが、学校の先生たちは、学校制服の必要性について、どのように感じているのでしょうか?今回は、全国の中学校・高校に勤務する教員1,400人を対象に、学校制服の良い点、学校制服の必要性、学校制服に必要なと思うことについて調査しました。

調査概要

調査対象：全国の中学校・高校の教員 1,400人

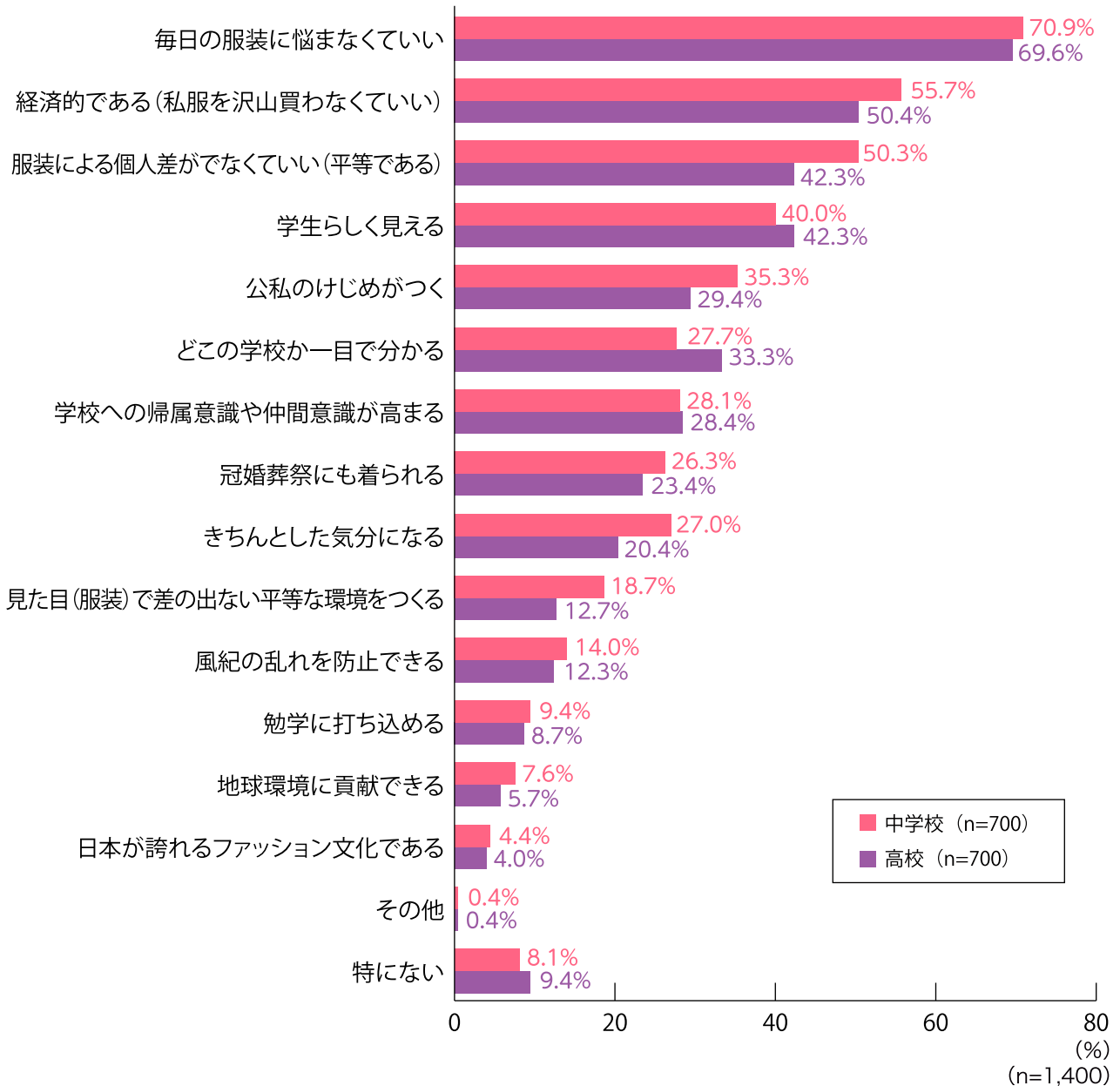
調査方法：インターネットリサーチ

実施時期：2021年6月



Q 1. 学校制服の良い点

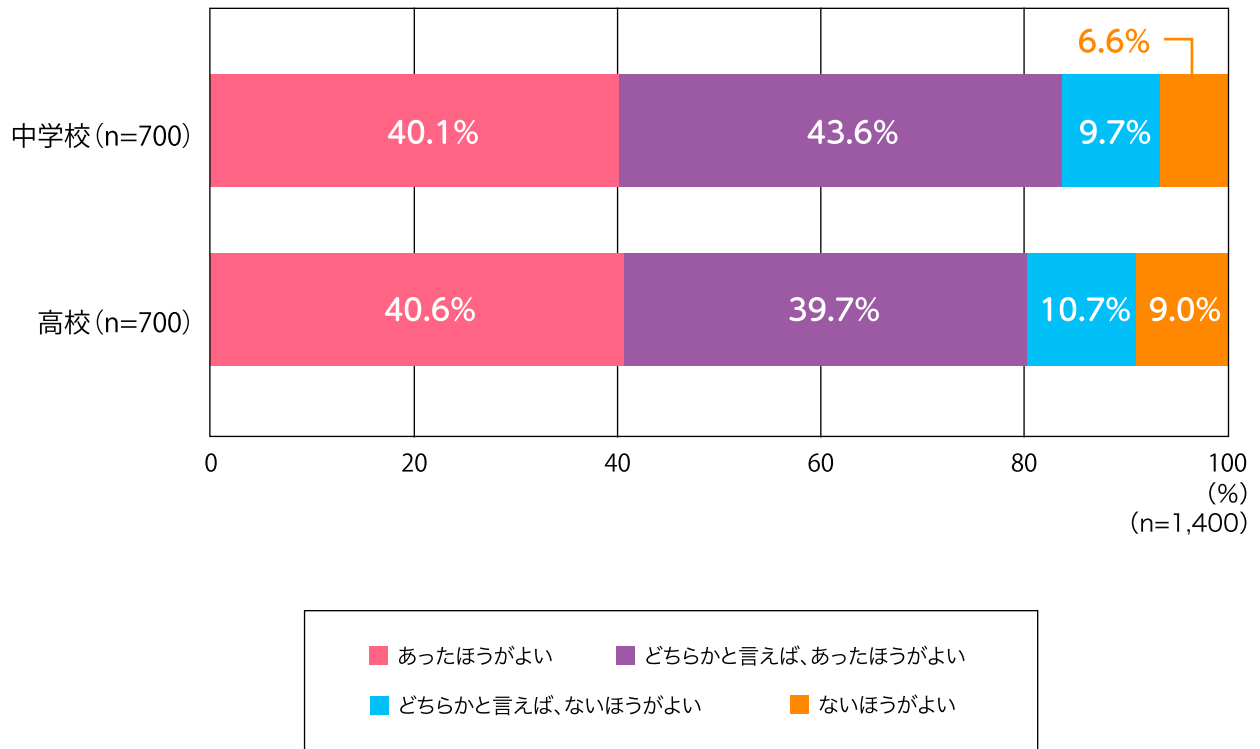
中学校・高校の教員が思う学校制服の良い点は、「毎日の服装に悩まなくていい」(中学校70.9%、高校69.6%)が最も多くなりました。次に、「経済的である(私服を沢山買わなくていい)」(中学校55.7%、高校50.4%)、「服装による個人差がなくていい(平等である)」(中学校50.3%、高校42.3%)といった経済性や平等性があげられ、「学生らしく見える」(中学校40.0%、高校42.3%)、「公私のけじめがつく」(中学校35.3%、高校29.4%)なども良い点とされました。



【図1】 学校制服の良い点はどのようなことだと思いますか。(複数回答)

Q 2. 学校制服の必要性

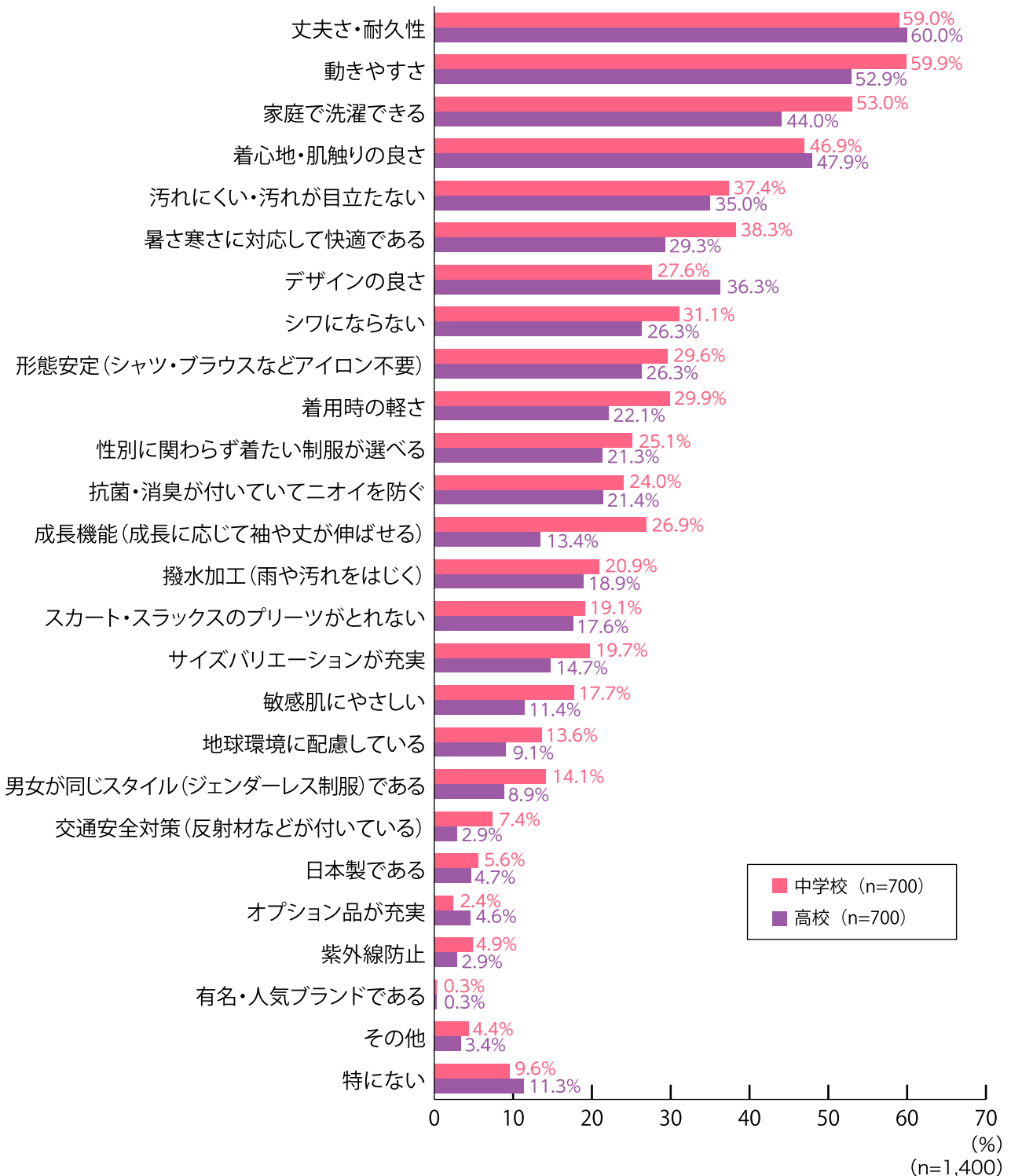
学校制服の必要性は、中学校は「あったほうがよい」(40.1%)と「どちらかと言えば、あったほうがよい」(43.6%)をあわせると、中学校の83.7%が学校制服は必要だと回答しています。また、高校においても「あったほうがよい」(40.6%)と「どちらかと言えば、あったほうがよい」(39.7%)をあわせると、80.3%の高校が学校制服は必要だと回答しています。学校制服は必要だと考える教員は、中学校・高校共に多いという結果になりました。




【図2】 学校制服はあったほうが良いと思われませんか。(単数回答)

Q3. 学校制服に必要だと思うこと

中学校・高校の教員が学校制服に必要だと思う内容は、中学校と高校で大きな違いは見られないものの、中学校では「動きやすさ」(59.9%)、高校では「丈夫さ・耐久性」(60.0%)がトップでした。続いて、「家庭で洗濯できる」(中学校53.0%、高校44.0%)、「着心地・肌触りの良さ」(中学校46.9%、高校47.9%)、「汚れにくい・汚れが目立たない」(中学校37.4%、高校35.0%)、「暑さ寒さに対応して快適である」(中学校38.3%、高校29.3%)など必要とされることは多岐に渡りました。また、性の多様性への配慮として、「性別に関わらず着たい制服が選べる」(中学校25.1%、高校21.3%)、「男女が同じスタイル(ジェンダーレス制服)である」(中学校14.1%、高校8.9%)という回答もみられました。



【図3】 学校制服に必要なことは、どのようなことだと思いますか。(複数回答)

 まとめ

近年、性の多様性の観点から女子制服にスラックスを導入する学校や、男子は詰襟(学ラン)、女子はセーラー服というような性別でアイテムを区分するのではなく、男女共通のブレザータイプを採用する学校が増えてきています。また、着用するアイテムを性別で指定せず、生徒自身(本人)が望む制服の着用を許可している学校もあり、学校制服の在り方も変化しています。

今回、全国の中学校・高校の教員1,400人を対象に学校制服の良い点を調べた結果、「毎日の服装に悩まなくていい」(中学校70.9%、高校69.6%)、「経済的である(私服を沢山買わなくていい)」(中学校55.7%、高校50.4%)、「服装による個人差がなくていい(平等である)」(中学校50.3%、高校42.3%)などの利便性・経済性・平等性などが高く評価され、中学校・高校の約8割が学校制服は必要だと回答していました。そして、その学校制服に必要なと思うことは、「丈夫さ・耐久性」、「動きやすさ」、「家庭で洗濯できる」、「着心地・肌触りの良さ」という回答が半数～約6割という結果になり、制服を着用する生徒自身はもちろん、1着の制服を3年間着続けられる丈夫さや、日頃のお手入れのしやすさで家庭洗濯ができることが支持されました。また、「性別に関わらず着たい制服が選べる」(中学校25.1%、高校21.3%)、「男女が同じスタイル(ジェンダーレス制服)である」(中学校14.1%、高校8.9%)など性の多様性への配慮を必要とする回答もみられました。

学校教育においては、共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育」が取り組まれています。インクルーシブ教育とは、すべての子どもの多様性を尊重し、経済的な格差、性別、障がい、アレルギー、人種、宗教などの個々の違いを包含し、誰一人取り残さない学校教育・環境を目指すことです。この観点からも、インクルーシブユニフォームとしての学校制服の価値が再認識されています。

毎月最終
火曜日
更新

カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>